



今回のテーマ

かたの通信



「骨粗しょう症と痛み」

2019.12
vol.20

骨粗しょう症とは、骨の強度が低下し、骨折し易くなったり、痛みや関節の変形が生じる病態です。60代女性の約3人に1人、70代女性の約2人に1人が骨粗しょう症であるといわれています。骨粗しょう症は、下の図のように骨吸収と骨形成のバランスが崩れることにより起きます。骨粗しょう症による痛みの主な原因として、脊椎圧迫骨折などの



骨折による急性疼痛と、骨折後の骨格の変形による慢性疼痛があります。また最近では骨粗しょう症の病態自体による痛み(骨吸収促進による酸の産生による影響)があることが報告されています。

骨粗しょう症は女性が顕著に多く、その原因は、閉経を迎えたことによる女性

ホルモン(エストロゲン)の分泌の減少で、その結果、骨吸収を促進して骨形成が損なわれていきます。このエストロゲンの欠乏状態自体が疼痛過敏状態を引き起こしているとも報告されています。

骨粗しょう症の治療には、薬物療法、食事療法、運動療法などがありますが、まずは骨密度検査をして、ご自分の骨の状態を把握しましょう。

骨密度の検査には様々ありますが、当院でも行っている「DXA法」が、最も正確で信頼性の高いデータを得ることができます。検査時間も短く、検査台に寝るだけで簡単に測定できます。女性は40歳以上、男性は60歳以上の人は検査を受けることが推奨されています。骨強度には骨密度が70%も関与しています。



是非一度、医師に相談して、骨密度

検査を受けてみてください。